

2019年度 学校法人イエス団甲子園二葉幼稚園自己評価シート

1 甲子園二葉幼稚園の教育目標

1. キリストの精神に基づき、私たち一人ひとりにはかけがえのない存在であるということを伝える。
2. 自律を教育の目標とし、自分を信じ、人を愛する心を育む。

2 本年度に定めた重点的に取り組む学校評価の具体的な目標

- ・環境を整え、子どもたちの遊びの充実を図る
- ・研修の充実を図る
- ・インクルーシブ保育を目指す
- ・子育てひろばにおける支援の充実
- ・危機管理マニュアルの見直しと書面化

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果
環境を整え、子どもたちの遊びの充実を図る	・子どもたちの遊びの環境を見直すことに重点を置き、保育の見直しを図った。子どもたちの遊びは充実してきているが、子どもの知識は内側から構成されるといふピアジェの構成論に基づき、子どもが頭の中で考えていることにそって援助するという、「子ども中心の保育」への個々の教諭の学びは浅く、理論と実践の確立に向けてさらなる学びを深めたい。
研修の充実を図る	・外部講師2名による継続的な学びの時を持つことができた。一つは、子どもが主体的に遊ぶための環境構成について。もう一つは、エピソード記録から見えてくる子どもの育ちについて考える場となった。日頃の疑問などを言葉にすることによって、課題も見え、これからどのような視点をもって保育をするのかを皆で共有することができた。今後も大切にしていきたい。
インクルーシブ保育を目指す	・要支援児を積極的に受け入れる中、「みんな違ってみんないい」という言葉の通り、発達の違いを認め合い、それぞれの良さを生かすことを大切に保育してきた。これからもどの子どもにも等しく多様性の中で、どの子どもも同じように生活することを励ましたい。
子育てひろばにおける支援の充実	・ひろばを居場所としてくださる親子が4713名集ってくださった。2020年1月8日から利用者支援事業「ふたばっこ」を開始。個別の支援は、ますます充実した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月からやむなく閉室となっているが、再開を心待ちにしてくださっている親子のために、寄り添う支援について更に考え、充実させていきたい。
危機管理マニュアルの見直しと書面化	・誰もが臨機応変に対応できるように、何を書面化するかを考える一年とした。話し合いの場を持つことにより、個々の危機管理意識は高まってきた。有事に備え、自然に行動に移すことができるようシミュレーションしていきたい。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

多様性の中で生きることを大切に、インクルーシブ教育を更に進めるため、異年齢での活動も計画してきたが、十分にはできなかった。一人ひとりの子どもたちの発達の違いを受け入れながら、更なる育ちを支えるために今後も努力を続けたい。新型コロナウイルスの影響により、3月の大切な時期に何もできなかったことは大変残念であるが、子どもたちの育つ力を信じ、教職員一丸となってこの時を乗り越えたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具合的な取り組み状況
子どもを見る目を養う	・遊びを見る目、子どもを見る目を養うための園内研修を充実させるとともに、実践力を磨く
インクルーシブ保育を目指す	・個々の幼児に対応した支援計画についてチームで共有する ・専門機関との連携を充実させ、一人ひとりの課題に応じた支援を行う ・共に生きる場として、垣根のない空間を目指す—異年齢保育の充実
教員研修の充実	・一人ひとりの教諭のスキルアップを図るため、積極的に学びの場へ出かける ・園の研修体系を再構築する
子育てひろばと利用者支援事業の連携	・ボランティアの活用等も視野に入れた支援者の育成を図る ・地域との連携の中、相談事業等も積極的に行っていく
リスクマネジメントについて考え、行動する	・新型コロナウイルス感染防止を含む、今後起こりうるリスクについて考え、誰もが行動できるよう取り組む

6 学校関係者の評価

監事監査会及び評議委員会に対し報告を行ったが、特に指摘すべき事項はなく適正との評価を得た。

7 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

8 情報の公開

法人のホームページ及び自園のホームページに掲載。アドレス…<https://futaba-k.jesusband.jp>